令和３年８月

妊婦さんの新型コロナウイルスワクチン接種について

妊娠中・授乳中の方でも希望される方は、新型コロナワクチンを接種することができます。日本で承認されている新型コロナワクチンが妊娠・胎児・母乳・生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。妊娠中の時期を問わず新型コロナワクチンの接種を推奨しています。

また、日本で承認されている新型コロナワクチンは、ウイルス等の毒性を弱めて作られた生ワクチンとは異なり、接種により新型コロナウイルスに感染することを心配する必要はありません。

なお、妊婦が感染する場合の約８割は、夫・パートナーからの感染と報告されています。夫・パートナーの方が、ワクチンを接種することで妊婦を守ることにもつながります。

妊娠中の方

米国では、すでに 14 万人以上の妊婦が新型コロナワクチンを接種していますが、発熱や倦怠感などの副反応の頻度は非妊娠女性と同程度であり、流産、早産、胎児の発育不全、先天奇形、新生児死亡の発生率は、ワクチンを接種していない妊婦と変わりありません。

また、米国における副反応調査結果から妊娠 20 週以前にワクチンを接種しても流産のリスクは上がらないとされています。

なお、妊娠中に mRNA ワクチンを受けた方では、臍帯血にも母乳中にも新型コロナウイルスに対する抗体があることが確認されており、産後の新生児を感染から守る効果があることが期待されています。

授乳中の方

授乳中の方も新型コロナワクチンを接種することができ、mRNA ワクチンの成分そのものは乳腺の組織や母乳に出てこないと考えられています。

授乳中にmRNA ワクチンを受けた方の母乳中に新型コロナウイルスに対する抗体が確認されており、こうした抗体が授乳中の子どもを感染から守る効果があることが期待されています。

産婦人科の関係学会は、妊娠中の時期を問わずmRNA ワクチンの接種を推奨しています。妊娠後期に新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいとされており、特に糖尿病、高血圧、気管支喘息などの基礎疾患を合併している方はぜひ接種をご検討ください。

ワクチン接種で留意すること

新型コロナワクチン接種の予診票には、「現在妊娠している可能性はありますか。または授乳中ですか。」という質問があるので、「はい」にチェックし、あらかじめ健診先の医師に接種の相談をしておき、接種してよいと言われていれば、その旨を接種会場の問診医に伝えて、接種を受けてください。

接種後の副反応について

副反応に関し、妊婦さんと一般の人に差はありませんが、発熱した場合には早めに解熱剤を服用するようにしてください。アセトアミノフェンは内服していただいて問題ありませんので、頭痛がある場合も内服してください。

アセトアミノフェン以外の解熱・鎮痛剤を使用する場合は主治医にご相談ください。

出典

1）新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチンについて（第 2 報）（日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、日本産婦人科感染症学会）

2）厚生労働省新型コロナワクチン Q&A
https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0027.html

3）妊娠・授乳中の新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種について（国立研究開発法人国立成育医療研究センター）